

CB-A5058

CB-A5050



RIGHT CHANNEL



25A733
LED



35C845



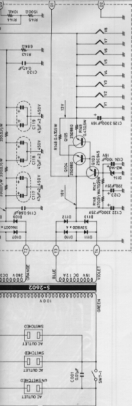
1W-034



1W-140

NOTE: UNLESS OTHERWISE SPECIFIED, ALL RESISTORS
ARE IN OHMS, $\frac{1}{4}$ WATT.

LUXKIT A505



SWITCHES

- SW1 (1-2) INPUT SELECTOR (1: ON, 2: OFF)
- SW1-1,2,3,6 ON MONO MC
- SW1-3,7 ON MONO MA
- SW1-4,8 ON TUNER
- SW1-5,9 ON AUX
- SW2 (1-2) TAP (1: SOURCE, 2: MONITOR)
- SW2 (1-2) MONO (1: STEREO, 2: L+R)
- SW4 (1-3) SUBSONIC (1: OFF, 2: ON)
- SW5 (1-3) TONE BYPASS (1: BYPASS, 2: IN)
- SW6 (1-2) SIGNAL GND (1: OFF, 2: ON)
- 1 J7 (1-2) POWER (1: ON, 2: OFF)

VOLUMES

- VR 201 BALANCE
- VR 500 VOLUME CONTROL
- VR 202 TREBLE
- VR 203 BASS
- VR 101-104 GAIN ADJUST



13A17
12A17

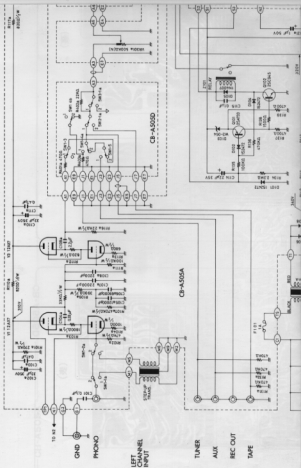
250P880



1N4007

1N4007

全回路图



❶ 電源コードのプラグをコンセントに通し込み、パワースイッチをON(■)し、インアクト・セリアターをPHONO-NMにする。

❷ アスターを規定電圧(AC-Yoh)レンジにし、A音級のG1-TP2間の電圧値がG1-TP1間の電圧値と同じになるように半固定ボリューム(VR-A)で調整する。

❸ 同様にしてG1-A2間の電圧値がG1-A1間の電圧値と同じになるように半固定ボリューム(VR-B)で調整する。

❹ G1-TP3間の交流電圧値が2V-10Vになるように、音量ボリュームをセットする。

❺ G1-TP4間の電圧値がG1-TP3間の電圧値と同じになるように半固定ボリューム(VR-C)で調整する。

❻ 同様にしてG1-TP5間の電圧値がG1-TP6間の電圧値と同じになるように半固定ボリューム(VR-D)で調整する。
(トーン・バイパススイッチが必ずOFF(■)になっていることも確認してから行ってください。)

❼ パワースイッチをOFF(■)にし、電源コードのプラグをコンセントから抜く。

❽ 工程①～⑧で配線した3本の導線を取りはずす。
Fig.2-5)参照

◀音量レベルの調整時の注意▶

本機は無音源回路を採用しているため、利得のパラッキが大きくなります。◀左右音量レベルの調整▶時に調整範囲を最大レベルバランスの調整が出来ない場合に、その後の左右チャンネルの真直管を差し替えて、再度調整を行なってください。

以上で、本機の動作テストおよび調整作業は終了しました。あとは最後の仕上げを現すのみです。

仕上げ

動作テストも終わり、いよいよ最後の仕上げを行います。

ゴム足の取付け Fig.2-1)

- ❶① LIST-Gのゴム足4個を裏面に、ビス(長さ10mm)とナット(長さ4mm)で取付けます。
② 裏面には裏と裏があります。図もよく見て、ゴム足の取付けも裏を間違えないように注意してください。

直線の取付け Fig.2-1)

- ❶① 直線の前と後を間違えないように注意して、リアパネルとリアパネルにディズンアビス(長さ10mm)4本で、フロント取付け部の内角スクリュービス(長さ8mm)3本で、それぞれ固定します。

天板の取付け Fig.2-2)

- ❶① LIST-Eのネジナット4個を用意し、天板の横の穴にネジナットをたいて取付ける。
② このとき、天板の横の字溝は斜めなどに出て行なってください。そのままネジナットをたくと、横が曲めたり破損することがあります。
なお、ネジナットは軽くたたきだけで取付けることができます。あまり強くたたくと、横を傷つけたりしますから注意してください。
❶② 天板の前と後に注意して本体に寄せ、左右両側にビス(長さ25mm)4本で取付けます。

シリアルナンバー・シールの取付け

- ❶① シリアルナンバー・シールの裏紙をはがし、リアパネルのSERIAL No.窓の場所に貼り付けます。
② シリアルナンバーは、修理やオーバーホールの時など製造時期等を知るために必要なものです。面を傷つけないように貼って置いてください。

以上で本機の組立て作業は完了しました。次章「各部の名称と用語」以降をよく読み、使い方や注意事項を十分に理解した上でお使いください。

- インプット・セレクターを PHONO-MM にし、レコードを再生する。
(カートリッジにはMM型など高出力を使用します。)

- ・左右ともレコードの再生音が出る
- ・片側あるいは左右ともレコードの再生音が出ない

- インプット・セレクターを PHONO-MC に、カートリッジをMC型にして、再びレコードを再生する。

- ・左右ともレコードの再生音が出る
- ・片側あるいは左右ともレコードの再生音が出ない

- パワースイッチをOFF(量)にし、電源コードのアラダをコンセントから抜いてから、本機に接続したコード類をすべて取りはずす。

【左右の音量レベルの調整】

次の①～④では調整用の配線を行います。いずれもあとで取りはずしますから、端子にあまや強く巻きつけないようにしてください。

- ① 黄色の導線 9mm を用意し、A基板のD1-D3間に配線し、ハンダ付けします。

- ② 白色の導線 5mm を用意し、A基板のN1-N2間に配線し、ハンダ付けします。

- ③ 青色の導線 5mm を用意し、A基板のN3-N4間に配線し、ハンダ付けします。

- A基板、D基板の部材および配線

- B基板、D基板の部材
・リモートケーブルの点検

- バランスコントロールのハンダ付け、および配線

- A基板の電源基の部材とハンダ付け
・シグナルLEDスイッチの配線

- C基板の部材とハンダ付け、および配線

- A基板のトーン・バイパス・スイッチのハンダ付け
・リモートケーブルの点検

- A基板、D基板の部材および配線

- 周辺トランスの配線
・リモートケーブルの点検

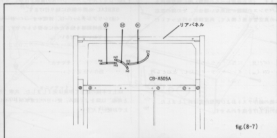


Fig. (8-7)